

社会福祉法人向け

農福連携研修資料

農福連携を通じた地域の再生

量（人口）より質（持続可能）な地域再生にむけて

大和は 国のまほろば たたなづく
青垣山ごもれる 大和し 美し



青葉仁会本部のある奈良市東部は三重県境に近い「大和青垣高原」にある。この地域は高齢過疎化が進行し、急速に荒廃林や耕作放棄地が増加している。

このような状況に、青葉仁会では地域の負の遺産となったものをこれまでとは違う視点で新たな資産としての再生を目指し、地域人口の流出防止、Iターンを促進し、「荒廃していく地域」を持続可能な形に再生していくことを目的とし、農福マルシェなど地域の活性化を目指すことにより持続可能な農山村地域づくりを目指す。

社会福祉法人青葉仁会

農福・企福・福福連携を通した取り組み

農福・企福・福福連携を通した取り組み

農業 耕作農地 7 ha

耕作放棄地となった茶畑や水田を再生・活用し、農作物の生産のみならず、地域の活性化につながるイベントの開催を行う。

「自然学校」と名付けた農業班により、茶・米・ブルーベリー・さつまいも・バジルなどの農作物を生産。

-米 青葉仁米が品質受賞

十数年前より取り組みを始めている。外部の評価機関が行う 2018 年度のコンクールにおいて「プレミアムライセンス グッドファーマー」認定を受ける「おいしいお米」を生産できるまでになった。

有機肥料づくりから始まる農福



-ブルーベリー 有機農法・無農薬

荒廃した茶畑を開墾したブルーベリー園を、摘み取りを楽しめる農場として運営。現在 1,400 本、収穫量にすると 14 トン / シーズンのブルーベリーを管理しており、毎年最盛期の 8 月には収穫祭を開催。地域住民・県外からの観光客も訪れる活気ある場所となっている。



放棄茶畑



ブルーベリー園に再生



ブルーベリー祭



酸性土に適合 大粒収穫

生産したブルーベリーは生のまま・冷凍・ジャムやお菓子に加工し、販売も行う。

黒米田



再生茶畑



とりあえずは芋畑



耕作放棄地を再生した田、茶畑、さつまいも畑。

農福・企福・福福連携を通じた取り組み

-茶

無農薬・手摘み・手揉みのお茶づくりを行っている。手作業で揉捻することでやさしい甘みを持った「和紅茶」を製品化。法人内で経営する店舗で、お茶のガトーショコラなどにも使用。



夏は茶摘み、冬は茶の実



手摘み



和紅茶



-サツマイモ 耕作放棄地対策

2020年は8トンの収穫予定。自家製干し芋やスイーツに加工。幼稚園などの市民の芋ほり提供も。



-玉ねぎ 耕作放棄地（動物被害対策作物）

法人内でオニオンフライに加工し、HACCP取得工場でレトルトカレー、スープ等を商品化し全国へ出荷を行う。



木工 荒廃林の間伐材を商品に。20 haの山林に取り組む

どんぐり山猫工房は廃園となった保育所を改装して開所した木工作業場。間伐材をカヌーや家具などの大型製品や、カトラリー、薪など様々な製品に加工。木工でベッドフレームを作成し、北海道光生会の珪藻土入りマットレスと組み合わせ、「農福連携かつ福福連携」といった製品も可能となった。

廃園となった保育所利用



木工整備



杉間伐材のカヌー



桧間伐材の抗菌ベッド



荒廃林



間伐後 遊歩道の整備を実施



山林体験コースで楽しみの場に



農福・企福・福福連携を通じた取り組み

紙漉き 荒れた竹林の再生対策とした竹和紙開発

手漉き和紙に取り組む日笠ワークスでは竹を使った頑強な和紙を開発。筆箱や名刺入れなどの製品に使用するほか、材料として原紙で企業に納品を行っている。



荒廃竹林



竹紙グッズ



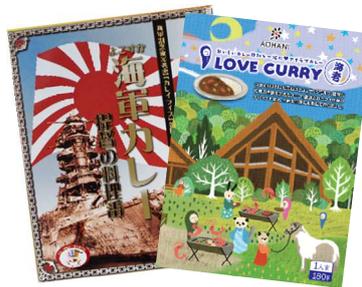
原紙を製造メーカーに提供

農産品加工 六次産業化で付加価値を

農業班で生産したブルーベリーで作るジャム、さつまいもペーストや干し芋、外部福祉事業所のほうじ茶を使ったシロップなどを製造。



農産物瓶詰加工品



PB 海軍カレー・オリジナルカレー



地名アピール「杣の森」スイーツ

石鹸 米・茶・酒・柚子などの農産物を化粧品石鹸に

化粧品製造業・製造販売業許可（薬機法）を取得し、地元産物を素材に農福連携石鹸を開発・製造。企業からの依頼で米ぬか、柚子、酒など様々な素材を用い、OEMでの化粧石鹸製造を行う。植物油を使用したコールドプロセスで製造する石鹸は生分解性が高く、人にも環境にも優しい製品となる。

米・茶・酒の石鹸



柚子原料



完成品



石鹸工場内



農福での地域活性・共生のための取り組み

農福での地域活性・共生のための取り組み

文化保存（古民家再生）

文化的価値のある古民家を維持し、市民・児童生徒を対象とした農業体験や、農家生活体験場所として地域文化と農福啓蒙。

古民家



表座敷



農業体験



五右衛門風呂体験



店舗運営

● 東部（中山間地域）地元農家の産物販売

地域の人の集まれる場所、また「自転車道の駅」としてサイクリストやツーリング客が立ち寄れる場所としたマルシェレストラン、料理、軽食、スイーツなど店舗ごとに特色を持たせた運営。

1. カントリーレストラン ハーブクラブ

年間 35,000~40,000 人が訪れる。薪ストーブを導入し、高い天井と相まってゆったりくつろげる場所。地元野菜を主体に、ランチメニューや法人内で製造するカレーなどを提供。青葉仁会と企業提携を行う（株）モンベルの製品を取り扱う「あおはにモンベルルーム」を併設。マルシェでは地元農家の野菜販売も行う。

2. 満天ひろば 家族が一同自由に過ごせる場所

テイクアウトカフェ、子供連れでも楽しめるメニュー、マルシェ、イベントを提供。店内には法人内各事業所で作った製品の他、地域の木工・陶芸・金属作家の作品を展示販売する物販コーナー。屋外に公園広場を整備し家族で過ごせる店舗としている。トイレ・シャワールームを完備した地域活性の場。

毎年初夏には大和高原サイクリイベント「グリーンフェスタ」を開催。



マルシェカフェ ハーブクラブ



カフェ店内



地域交流「満天ひろば」



地域物産を扱う店内



農福での地域活性・共生のための取り組み

3. アート&カフェ 水仙月 地域農産物を新たな商品に

地元農産物のみを使用したメニュー展開を行うレストランで、紙漉きを行う日笠ワークスに併設。「アート&カフェ」の名前の通り、利用者の絵画作品、紙漉き製品などを内装に活用。また、テーブル・椅子はどんぐり山猫工房で製造し、使用できる展示スペースとなっている。



抹茶芋クリームのロールケーキ

ご当地産物限定マルシェカフェ



利用者アートを展示する店内



●西部（少子高齢の進むベッドタウン）

4. デリカテッセンイーハトーヴ 地域のライフライン拠点 農産物の活用

加工・カフェなど農産物の六次産業化

-物販

廃業したスーパーを改装し、自家農園の野菜などを使ったお弁当やお惣菜、ケーキやパンなど、地域住民のニーズに合わせ食品を主としたラインナップで、地域の「食」を通じた健康な生活を支える。また、全国各地の福祉事業所の農福アンテナショップとなるように様々な製品を揃え、全国各地のちょっと珍しいもの、美味しいもの、体にやさしいものを取り扱う。

-カフェ

おかずたっぷりの手作りランチや、同事業所で製造するカレー、スイーツなどを提供。

-食品加工

上記カレーを製造する部門で、JMHACCP 認証取得の食品加工工場。カレーOEMのほか、農産物を使ったシチュー・スープ・ソース、お粥や野菜の水煮、災害時用の備蓄に適したレトルト製品の製造を行う。※HACCP・・・危害要因を各工程において分析し、重要な工程を重点的に管理することで、最終製品が安全であることを証明する、食品の衛生管理方法。

廃スーパーを地域のライフラインに再建



食品売り場



レトルト加工



農福での地域活性・共生のための取り組み

5. カフェ&ベーカリー クラムボン 地元米粉・小麦を加工品に

パンカフェ

-カフェ

併設ベーカリーで製造する焼きたてパンをランチと共に提供。映画館としての設備をもち、各種イベントホールとして利用可能。

-ベーカリー

自家農園で生産したのバジル、ブルーベリー、サツマイモ、米粉などを原料に、フランス製オーブンで焼く自家製酵母パンを製造・販売。法人内部だけでなく、外部のレストランへ冷凍出荷での卸も行う。



6. 生駒事業所 都市公園食堂をノウフクマルシェカフェに

(株) モンベルとの共同体で行う指定管理事業。生駒山麓公園・アスレチック・公園内レストランの運営を行っている。地元野菜を積極的に使用しながら、家族連れでの利用も想定したメニュー構成としている。休日には 500 人の来客を数える日もあり、同時に 180 名の団体宿泊にも対応し、学校行事や研修会での利用がある。また各種アウトドアイベントや、マルシェなど物販イベントを実施する。

農福研修会なども開催。



レストラン



地元農産物を使うランチ



マルシェ

多様な仕事の提供

多様な仕事の提供

人が仕事を選ぶ

農作業や公園整備、各事業所でカフェ業務（ホール接客・キッチン調理）、物販では商品品出し、農産物の瓶詰加工や菓子製造など様々な仕事を提供。

様々な場所で働く利用者



食品加工



ベーカリーでのレジ、ホール



手漉き和紙



造園



レストランでのホール業務



農業



農福連携

「地域の確実な経営主体である社会福祉法人の多様な人材を
農福推進の原動力に」

第三の社会保障は食糧保証

農福を中山間地域住民の自信の回復に

目指そう都会集中ではない日本全体の共生国家

- 農福社会は障がい者参加の共生創り
- 地域の限界を見るより農福での可能性を考えよう
- 耕作放棄地、無用とも思えるその景色こそ農福資源
- 農福の姿が見えれば変わる、変われば見える新たな地域の発見に
- 農福が創る量（人口）より、質（持続可能）な地域に再生